

第 3791 図

みやましらすげ

*Carex confertiflora* Boott

北海道から北九州までひろく、深山の溪畔に多い多年生の大形草本であるが、時に平地の流れにもはえる。太い根茎から少数茎が直立し、別に褐色鱗のある太い匍枝を横走する。全体剛壮で粗大、茎は3稜形で草緑色、高さ60cm以上、剛直で平滑。葉は巾1cmを超え、表面は緑色、裏面は乳頭突起を布くために白味が強い。6-7月頃、茎の中辺から上の各腋に径8mm程、長さ3-7cmの太い円柱状の雌穂をつける。果囊が膨れて倒卵形をしたのが圧し合って並び、生時緑白色だが、乾くと全く黒褐色化するのが著しい。先端嚢部長く急に突出する。和名は深山白スゲ。



かやつりぐさ科

第 3792 図

やまじすげ

*Carex bostrychostigma* Maxim.

関西以西九州までの間の稍々高い山の溪畔に生える多年生草本で、朝鮮、満洲、ウスリーに分布する。根茎は群生するが緩く四方に茎と葉とを斜めに展開し、全草軟かく暗黄緑色である上に、雌花序の果囊が細く緑色を呈するために、その印象はスゲというよりもトボンガラに似ている。茎は瘦せ上部が垂れるので高さ15cm内外、基部には繊維が残る。葉も軟質、径3mm位、雌穂は頂生、雌穂は多数互に距って側生し、長さ3cm程で花は疎につく。雌花穎は卵状楕円形、緑色、果囊は8mm長で狭長楕円形状披針形、膜質で緑色、柱頭は3、長さ1cmで宿存性、生時汚白色、枯れて淡暗紫となる。和名は山路スゲ。



かやつりぐさ科

第 3793 図

みやまじゅずすげ

*Carex dissitiflora* Franch.

南千島から北九州までの間の稍々高山の林内、湿気が多いところにある多年生草本。高さ40-60cm、全体に軟かく鮮緑色。茎の根元には淡褐色の鞘状葉を伴い、後に暗色の繊維となる。葉は巾4mm前後、葉鞘は緩く、膜質部はひろがっている。6月頃に茎の中辺から上の各葉腋に雌穂を距ってつけ、雌花もまた疎在、頂上の穂は両性で上部のみ雄性。雌花穎は楕円形で多少褐色、果囊はその2倍位の長さで突出しており、1cm長、長卵状紡錘形で3稜を帯び、乾けば膜質で多少光沢を生じ淡緑色。柱頭は短かく且つ早落性。ヤマジスゲに近縁。



かやつりぐさ科

ぐれーんすげ

*Carex parciflora* Boott

北海道から本州中部、主に裏日本系の山中の湿った草地溪畔などに生える多年生草本。高さ40cm内外、大株になることもあるが、茎は緩かに集まる。全草軟かく淡緑色で、白味を加える。葉は巾5mm内外。6月頃に開花、雌穂は長さ1cm強の線形、雌穂は短柱状で2cm長内外、最上のは雌穂に接して無柄、下に向って次第に間隔が空き同時に細い梗が長くなり、斜めに傾く、淡緑色。雌花穎は4mm長、緑背、白色、短芒。果囊は5mm、長卵形で上部開出、乾いて暗緑褐となる。和名はC. Glehni Fr. Schm. の学名に出で、本種の採集家の名。なお本種の学名はタカネハリスゲの学名と混じり易く注意を要する。



かやつりぐさ科

たまつりすげ

*Carex filipes* Fr. et Sav.

本州と四国の湿度高い疎林下にはえる多年生草本で、全草蒼緑色を呈し、軟弱、叢生するも茎は放射状に倒れて乱れた姿になる。茎は3稜柱で長さ40-60cmに達する。葉は短かい線形で葉鞘顕著、4-5月頃に茎頂には1cm許りで稍々穎のつんだ雌穂を割に太い短軸でつけ、茎の中辺の葉腋からは細い糸状の花梗で雌穂を釣り気味につける。雌穂は茎葉と同一色、甚だ疎花で、球形の果囊が間隔を置いて附くので玉釣スゲの名をえた。果囊は長さ6mmの球状楕円体、頂部は急に細い嘴となる。



かやつりぐさ科

第 3796 図

えなしひごくさ

一名さわすげ

*Carex aphanolepis* Fr. et Sav.

北海道から九州にわたって丘陵の林下多少湿度ある地に普通な多年生草本で、高さ30cm内外、匍枝が地中を横走し、株は稍々離れて立ち、群生する。全体に黄緑色、柔弱な性質であるが、茎は直立する。ヒゴクサに酷似するが、雌花穂が普通柄がなく直接に葉腋につき、果囊は長卵形で急に嘴状に尖るため、該種の如く緩き穂とならず、柱状の穂体突起を生じた様に見える、柱頭は同じく白色なれど彼の如く長大且つ宿存性でない点で区別される。和名は柄無しヒゴクサで雌穂の性質に基づく。



かやつりぐさ科